

血液透析患者における低用量 niceritrol の有効性と副作用についての検討

第 52 回 大阪透析研究会

第 44 回 日本透析医学会学術集会

栗岡康子・山田明子・佐々木敏作¹ / 長浜文子² (大阪掖済会病院 内科¹ / 薬剤部²)

【目的】niceritrol が血液透析患者の血清 P を低下させることはよく知られている。しかし、我々は niceritrol 750mg/日の投与量では高率に消化器症状が認められ、また貧血や血小板減少も起こり得ることを報告してきた。今回我々は、より低用量の niceritrol を投与しその血清 P 低下作用と副作用について検討を行った。

【方法】維持血液透析患者 37 名(男 24 名、女 13 名、平均年齢 64.2 ± 11.5)を対象とし、niceritrol の投与量(0, 125, 250, 375mg/日)により 4 群に分けた。それぞれの量を 8 週間投与し、血算、Ca, P をはじめとする各種生化学検査、i-PTH、血中エリスロポエチン濃度などを測定した。

【結果】0mg 群、125mg 群、250mg 群では、8 週後まで血清 P の変化は認められなかったが、375mg 群では投与 4 週後、8 週後には血清 P は有意に低下した(前値 5.34 ± 0.93 、4 週後 4.15 ± 0.90 、8 週後 4.43 ± 0.83 、 $p < 0.05$)。HDL-CHO は 250mg 群での 4 週後および 375mg 群での 4、8 週後でそれぞれ増加した。i-PTH および 血中エリスロポエチン濃度は各群とも投与前後で有意な変化は認められなかった。副作用として消化器症状が 6 名に認め、内 3 名は投与中止した。また Hb 1g/dl 以上の低下を 8 名に認め、内 1 名は投与中止したが、血小板減少例はなかった。

【総括】niceritrol は 375mg/日で血清 P 低下作用を示した。従来の 750mg/日の投与量に比べ消化器症状の副作用は減少し、血小板減少も認められなかったが、貧血例は同様に認められた。